

事実には真実でない

3・11日以降、原発事故の放射能問題からTPPまで、政府や東電、大手マスコミの報道の、隠ぺいされ偏った見方が蔓延するなど、常に国民に真実が知らされない中、洪水のように情報 が流され続けています。アメリカでは9・11の同時多発テロ以降、大惨事に

つけ込み過激な市場原理主義によって貧困格差が拡大し続けています。追従する日本も写し絵のごとく拡大して行きます。何が本当なのか信じられない今、どうすれば私たちは真実を手にするのでしょうか。

一般論としては、真実―嘘のないこと、本当のこと。事実―現実に起きたこと。本来なら「真実」＝「事実」にならなければならぬのが、そうはならないことが多い。

例えば、先の大戦で日本は、アメリカやイギリスを中心とした「連合国」と戦った。周辺のアジア諸国を戦場にしました。多くの日本人、アメリカ人、イギリス人、アジア人が死んだ訳です。どういふことが起こっ

たのか、すべては分からずとも分かっていることが多くはつきりしていることは多いはずなのです。ところが、大戦の「真実」となると意見が分かれます。

ある人は「日本のアジア諸国に対する侵略戦争だ」といい、ある人は「日本の自衛戦争だ」といい、ある人は「白人が支配するアジアの開放戦争だ」という。

なぜこうなるのか？「多くの人間は見たい現実しか見ない」という言葉があります。真実とは「見た人が見たい現実をみているもの」だからではないでしょうか？

事実の一つだが真実は人の数ほどあるといわれます。真実はそれを口にする人間の価値観と切っても切り離せないといわれています。

コップに半分入っている水は、誰が見てもコップの半分を占める水ですが、ある人にとっては「半分もある水」であり、ある人にとっては「半分しかない水」です。

大マスコミNHKキャスター9は権力を代弁、自主規制？国民意識のすり込みに手を貸す。

個人的には、「事実」は人間の外部にあるもの、「真実」は人間の内部にあるものと考えます。

「客観的事実」という言葉はあっても「客観的真実」という言葉は聞いたことがありません。

問題は、人間の認識がそういうものである以上、果たして「事実」を「真実」として認識できるか？という大問題が生じます。

そうなる報道の「事実」というものは、ホントにあるのか？という疑問が生じてはいけないのです。

野田TPPも、野田消費税もなぜかを見抜かなければならないのです。

業界の人

昔から成功した人達の言葉には、時代や人が変わっても、自然、先祖、恩師、父母、妻、兄弟等、底流に変わることのない感謝の思いを見ることが出来ます。

よく聞く「自分が今日あるのは、誰々のおかげ」という言葉です。「志、固ければ、事、遂に成る」という言葉があります。

志を固くするのは「謝恩の心」があるからだともいえます。

また「子は母の醜きを厭わず、犬は家の貧しきを厭わず」とあるように、受けた恩を深く心に留めている人は、人の美しい心がいつの間にか自分の心となり、その心を育むことで自然と人を、成功に導いていくものだといえます。強欲な人は、理解不能でしょう。この国では地位や名声は別として、人間として「義」に反すれば決して成功したことにならないと思うのです。



(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
2012年3月22日 (木) NO. 242
地域から明るい未来を作ろう